

概要・研究の意義

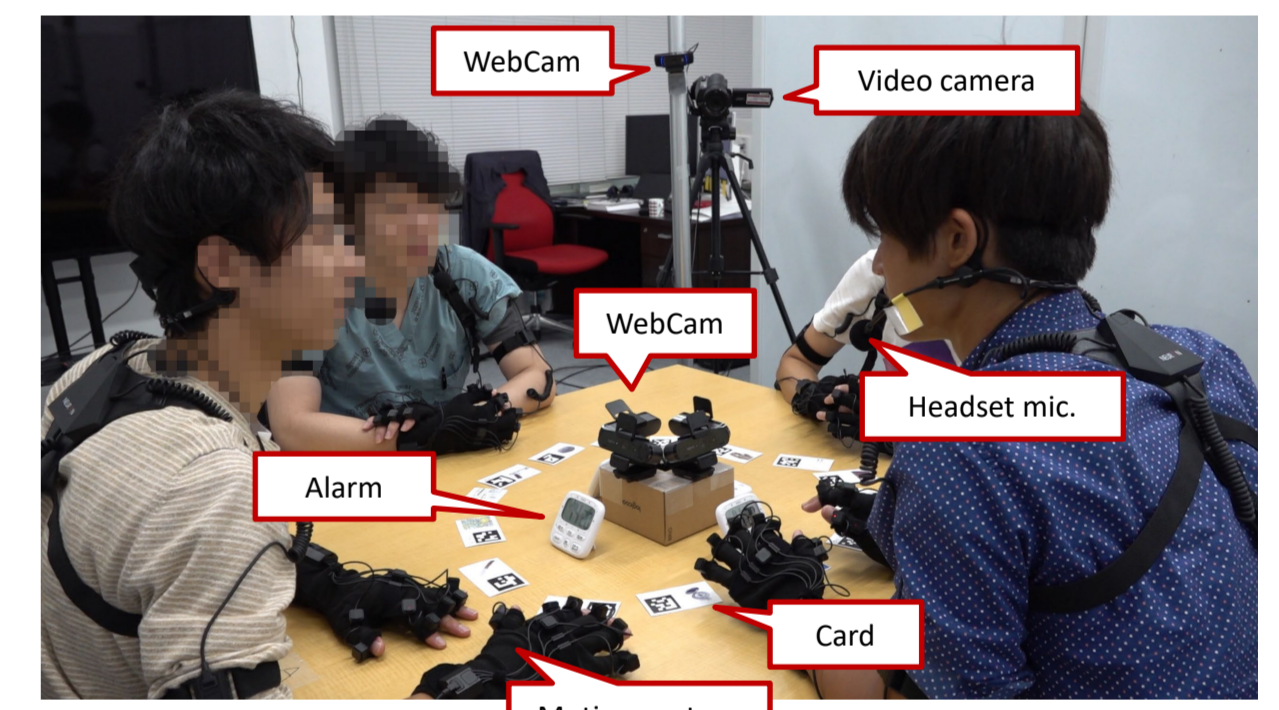
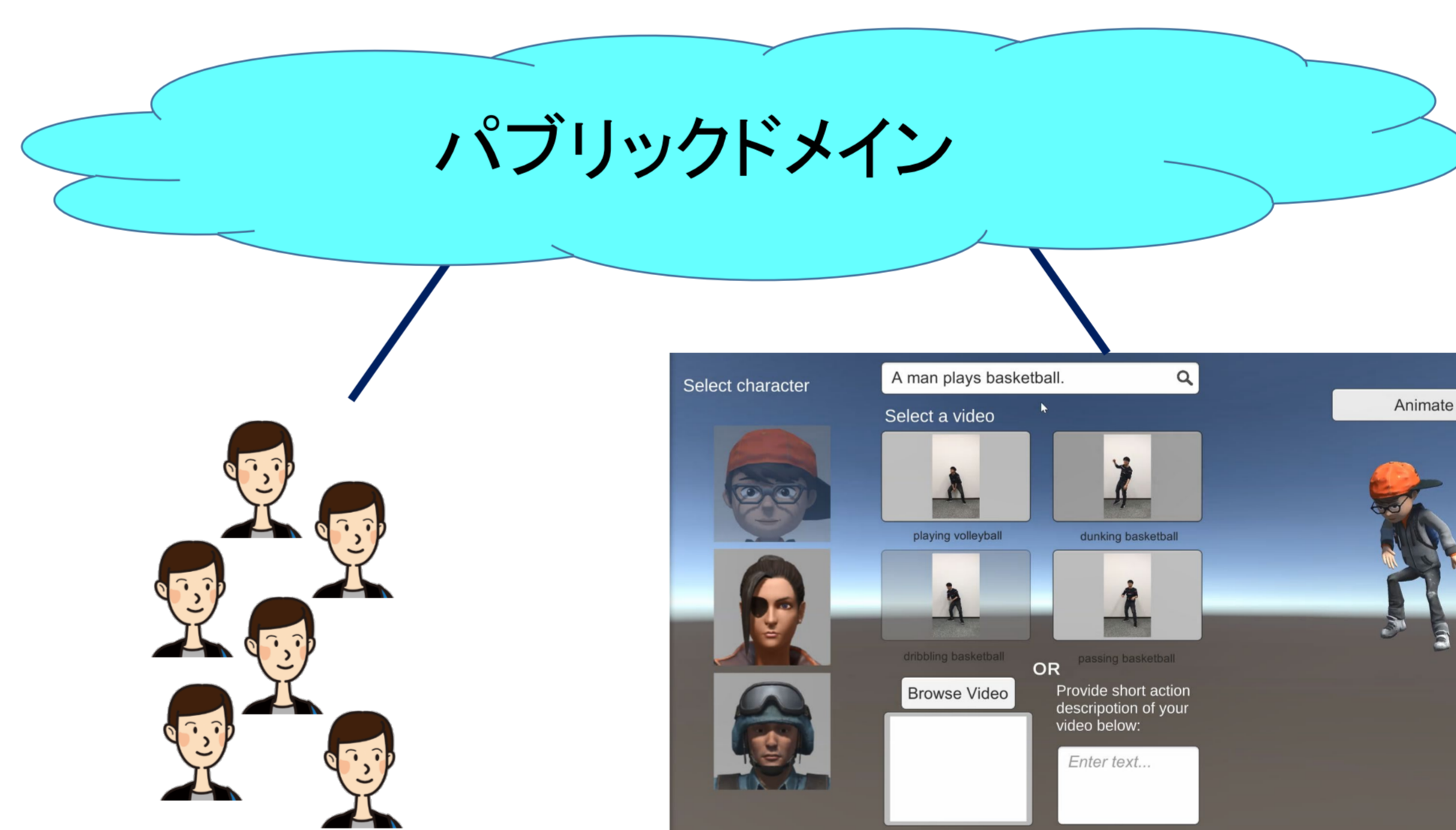
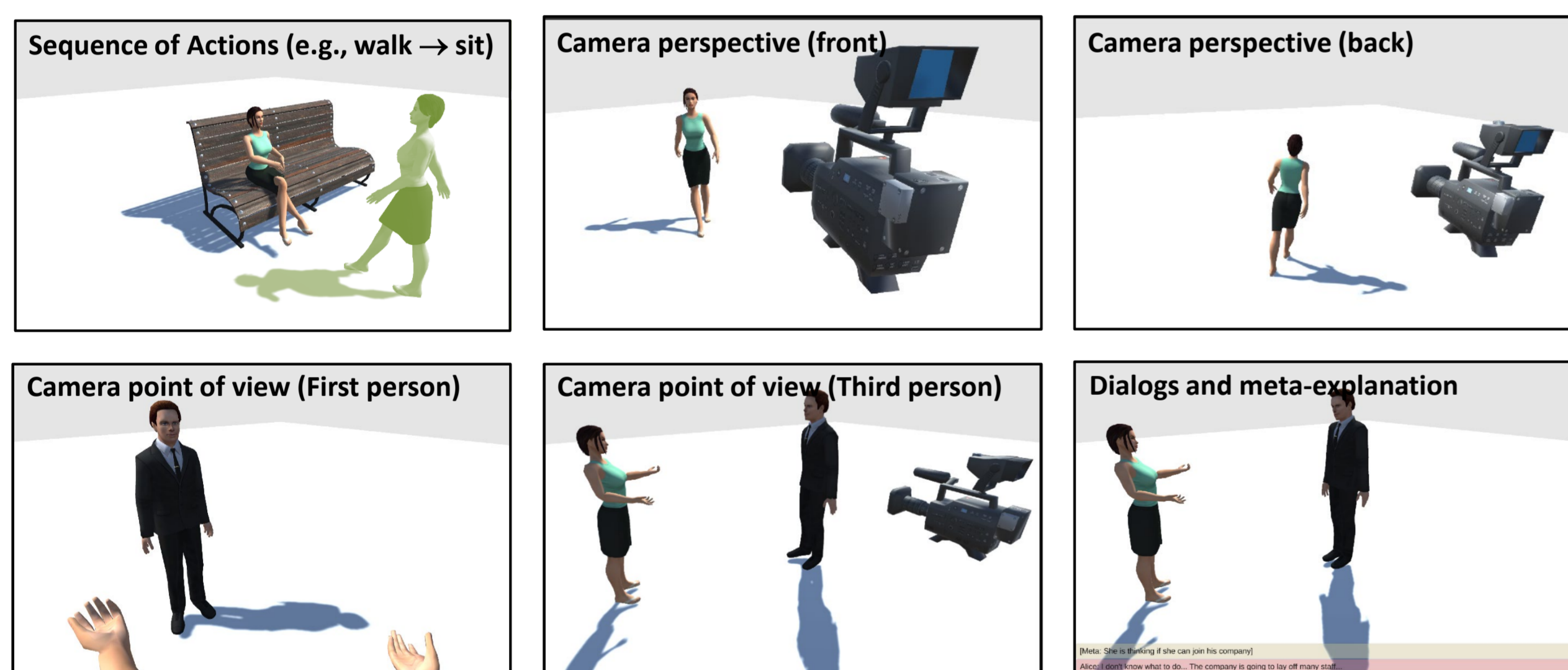
人とAIが共存する未来の会話を価値あるものにするために、会話の理解と拡張のための計算モデルの構築と応用に取り組んだ。会話をコモングラウンド——参加者たちの間で共有され、それ以降の会話の前提となることから——の継続的な更新として定式化し、コモングラウンドが会話とともに持続的に発展するプロセスを、構造化されたデータとして経験的に生成し、その様子をユーザが異なる視点からインタラクティブドラマとして体験できるようにするためのプラットフォームの構築を中心に研究を進めた。コモングラウンドというコンセプトを中心とし、人と円滑で確実にコミュニケーションできるだけでなく、人と人のコミュニケーションも拡張できるAIにより今後のAI時代の基礎を築く。

これまでの代表的な研究成果

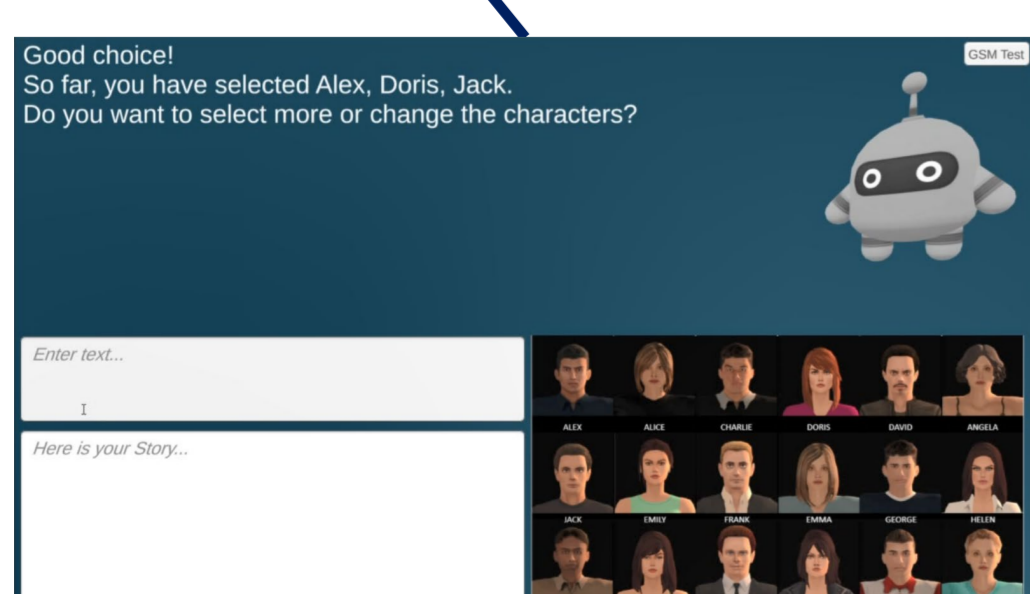
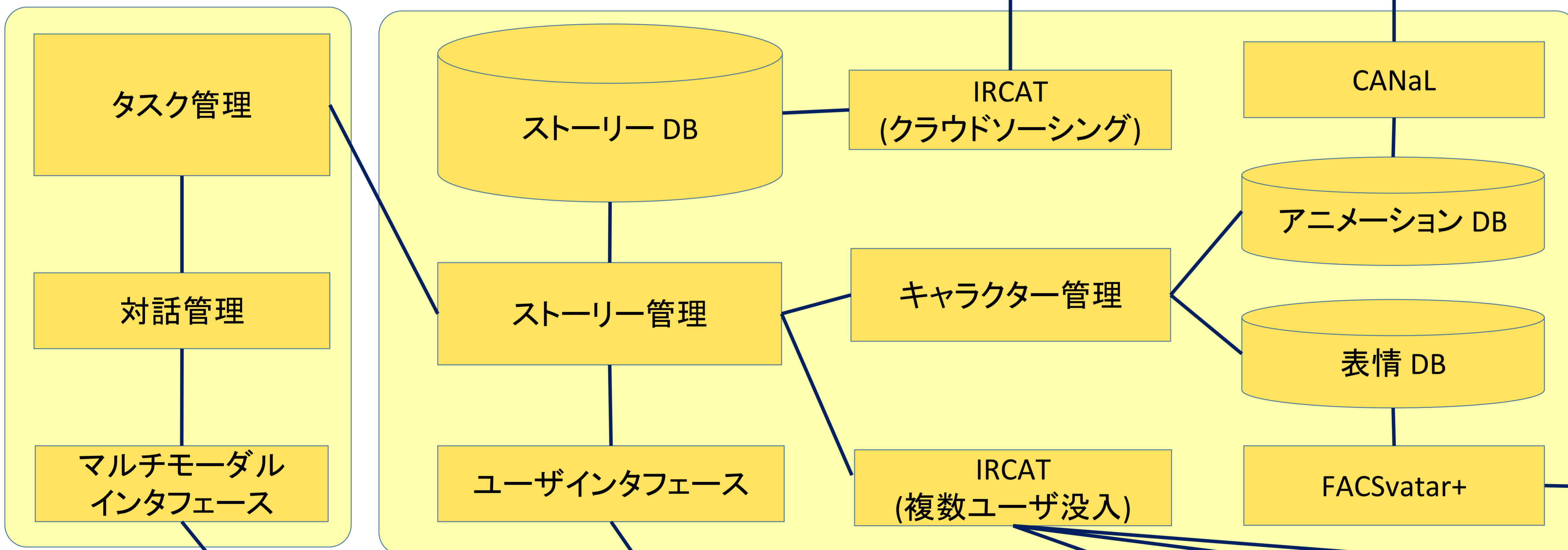
- 会話エンビジョニング研究のためのプラットフォームとして参加者とメタ参加者が視点を切り替えながら共同でストーリーを構築、批評できるiSCTを研究開発した。
- コンテンツ開発を加速するための知的ツールを研究開発し、公開した。IRCATは、複数のメタユーザが対象となるシーンに没入して、ストーリーを協議する過程を支援する。CANaLはインターネットにあるムービーから動作を半自動部品化し、自然言語インタフェースでアクセスできる。FACSVatarはUSBカメラからの顔画像をリアルタイムキャプチャし、3次元顔モデルに投影する。
- 異文化間コミュニケーション、第二外国語学習、聴衆のシミュレーションによるプレゼンテーション支援に応用した。

目指すゴール、今後の展開

- 会話エンビジョニングにはAI技術の活用程度に応じていくつもの段階がある。
- 2017～2019年度の研究で、全体のグランドデザインと社会への提示、主要コンポーネントのプロトタイプング、予備的な評価を終了した。
- 次のフェーズとしては、AI技術を投入して、会話エンビジョニング支援技術を高度化し、誰にでも高度な会話エンビジョニングが容易にできるようになることが考えられる。
- また、会話エンビジョニングを学術として整備することにより、比喩や情感など、初期段階の視野を超えた取り組みが考えられる。



iSCT (Intelligent Situation Creation Toolkit)



ストーリー制作支援エージェント



ユーザ

